

「農商工連携を核とした販わい交流拠点施設」整備について

保科善一郎



略のどの部分に該当するのかわう。

〔質問〕本事業の申請内容と計画承認内容について伺う。

〔答弁〕【地方創生対策室長】本事業は、推進交付金事業に農産物等販売施設、地元食材活用レストラン等の整備を盛り込み、平成29年3月に変更計画を提出し、同年6月に変更が認定されている。

〔質問〕「本施設における各種交流事業を展開し、同一拠点内に整備予定の農商工施設との連携によりにぎわいの創出を図り、魅力的で特色ある施設とすることによって若い世代を中心とした定住支援を目指す」としているが、本事業は本市の地方創生総合戦

設」及び「農産物等販売施設」は、当面は業務委託とし、事業安定後は指定管理者制度導入を考えている。

〔質問〕本事業は、費用対効果や事業の安全性、安定性、継続性からみるとリスクが高いと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】今後これらの事業者が決定次第、拠点施設事業を担う協議会的な組織を設立し、オール白石体制で持続的な活性化に向け全力をつくす。

〔質問〕配慮すべき点として、既存の産直施設や商店街への影響についての対応を伺う。

〔答弁〕【市長】既存農産物販売所は、白石市農産物直売所連絡協議会に加盟し、市とともに連携を図っている。

また、本施設で商店街の商品を販売することにより、中心商店街への誘導、活性化の契機になることを期待している。

平成30年度施政方針と予算について

伊藤勝美



〔質問〕予算編成をす

らしや市の地域経済の現状をどのように把握されているのか。

〔答弁〕【市長】県内の一人当たりの市町村民所得について、本市は14市のうち、12番目と厳しい所得水準となっている。

〔質問〕予算編成するにあたり、最も苦労されたことはどのような点であったのか。

〔答弁〕【市長】本市の財政状況は、自主財源に乏しく、地方交付税

や国庫支出金等の依存が高い財政構造にあり、収支不足の状況にある。そのため、財政調整基金の取り崩しが続いており、基金

残高が年々減少していることから、前年度と同規模の予算編成は困難であった。

このことから限りある財源を重点的、効率的に配分し、市民生活を安定的に提供できるように、事業の内容や効果も含めて、二つ三つさまざまな角度から私なりに考えて編成した。

〔質問〕本年度予算においてのインフラ整備、ハード整備への配分はどのような考えで編成をされたのか。

〔答弁〕【市長】緊急性や重要性が高い事業を優先に配分した。

〔質問〕市長みずからトップセールスについて、今後の考え方や取り組み、目標等についての見解を伺う。

〔答弁〕【市長】本市の

PRはもちろんのこと、本市の本気度や姿勢を理解していただく非常に良い機会と捉えている。今後、積極的にを行うことで信頼関係の構築とともに、本市への立地支援の担保を印象づけていきたいと考えている。

◎教育委員会について

〔質問〕教育委員会の会議の傍聴者が少ないのは、何が原因と分析しているのか。

〔答弁〕【教育長】難しい問題だが、教育行政への関心の低さがあるのではと考えている。

〔質問〕教育委員会の会議録を公表すべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【教育長】現在、公表等は努力義務となっている。

傍聴の告知等と合わせて何らかの形で公表できれば、会議の透明性に繋がると考えることから、今後検討していきたい。